

DAS KAPITAL

2022年4月学習会への案内です
第38回「資本論を読む会」

日時：4月28日（木）
午後6時30分 Zoomで開催
「第13章 第3節 機械経営
が労働者に及ぼす第一次的影響」
(続く P375～b労働日の延長)

コロナ禍にめげず如何お過ごし
でしょうか。3月30日の「資本論を
読む会」は8名の参加でした（地方
1人）。学習会常連の方の中でも、
退職で送別会が入った人が今回は
欠席。でも送別会は開かない地域
もあり、コロナ対応でも違いがあ
ったようです。今回は第2節の「生
産物に対する機械装置の価値移転」
を討論してから、第3節「機械経営
が労働者に及ぼす影響」に入ら
しました。

レポーターはKaiさん。時間的には「a. 資本による補助的労働力の支配－婦人労働と児童労働」
だけで終了しました。第8章労働日でも、婦人労働と児童労働への過酷な搾取の実態を見てきま
したが、今回もひどいものです。「機械が筋力を不要なものとすることで、筋力のない労働者、婦人
と児童が男性労働者に代わって雇用される。家族全体が労働者となる。」両親によって売られる子
どもたち、母親から乳の代わりに麻薬を与えられる乳幼児など…。

次回は「b.労働日の延長」(p375～)から始めます。資本論の中でも大変読みやすく、分かりや
すく、かつ関心の高いところですね。

次回からも初参加の方歓迎します！別途お送りするZoomアドレスからお入りください。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから--anak

第4編第13章 機械装置と大工業 第2節 生産物にたいする機械装置の価値移転 p348-361

(ポイント)一方で商品の価値を高め、他方で商品の価値を低くするという一見矛盾した関
係のなかで、資本家はどんな条件のもとで機械を導入するのか。

①協業や分業から生じる生産力(=社会的労働の自然力)や、蒸気や水などの自然力、科学は、資本家にと
っては何らの費用を要しない。

・しかし、これらを利用するには非常に費用のかかる複雑な装置が必要である。

・機械装置は価値を創造しはしないが、生産物にそれ自身の価値を移転する。機械は、それ自身の価値
に応じて生産物を高価にする。

②手工業やマニファクチュアの商品の価格と機械生産物の商品の価格とを比較すると、機械生産物の労
働手段に負う価値構成部分は相対的には増大するが、絶対的には減少する。

③機械の生産性は、機械が人間の労働力に代わる程度によって図られる。

④資本が支払うのは、充用された労働ではなく、充用された労働力の価値であるから、資本にとっての機械
の使用は、機械の価値と機械によって代わられる労働力の価値との差によって限界が与えられる。

⑤労働力の価値以下への労働賃金の低落が機械装置の使用を阻止する

※児童労働(半時間工)は機械装置によって代わられた

※しかし北米人は碎石機を発明したが、イギリス人は貧窮者を使用している。

河舟を曳く婦人(馬の代わりに使用される)

…以上・要約

